報道関係各位

2006 年 6 月 14 日
緑内障フレンド・ネットワーク

緑内障フレンド・ネットワーク 患者会員調査

自覚症状の現われにくい緑内障、失明を防ぐ早期発見のためには“気づくきっかけ”が鍵。86.5%の患者が「地方自治体の定期健診に緑内障の検査が必要」と回答！

―診断前に「視野が欠けている」のを感じていた人はわずか 12%のみ―

緑内障の患者組織である緑内障フレンド・ネットワーク（代表：柿澤映子、会員：1,800 名）は、緑内障患者の実態を把握するため、2006 年 3 月 24 日～4 月 11 日に、患者である会員を対象にアンケート調査を実施しました。

69.0%の患者が、緑内障と診断された時点で「視野の欠損」がみられたと回答しましたが、診断前に自覚症状として「視野が欠けている」と感じていた人はわずか 12.1%で、自覚症状が現われにくい緑内障の特徴を顕著に反映する結果となりました。

健康診断で緑内障が発見された人は 11.3%にとどまる一方で、緑内障の早期発見のために必要と思う取り組みとして、多くの患者が「地方自治体や企業の健康診断に緑内障の診断項目を入れる」を挙げています。回答者の多数が、受診機会の多い地方自治体や企業の健康診断で、緑内障の発見につながる検査の実施を希望しています。

【調査結果の要約】

■**緑内障のタイプの中では、半数が NTG**

緑内障のタイプでは NTG（正常眼圧緑内障）が 50.3%と最も多く、そのうち自覚症状がなかった人は 55.9%と、他のタイプの緑内障よりも多く見られました。

■**緑内障が発見された年齢は 40 代、50 代、60 代に集中**

緑内障が発見された年齢は 50 代が最も多く 38.1%、次いで 60 代が 21.0%、40 代が 19.4%となりました。

■**自覚症状として「視野の欠損」を感じていたのはわずか 12.1%**

緑内障と診断される前に、自覚症状として「視野が欠けている」と感じていた人は、「視野が少し欠けている」が 9.8%、「視野がかなり欠けている」が 2.3%で、合わせて 12.1%にとどまりました。

■**緑内障と診断された時点で、69.0%の患者に視野が欠損**

緑内障と診断された時点で視野に欠損が見られた人は、「視野が少し欠けていた」が 46.8%、「視野がかなり欠けていた」が 22.2%で、合わせて 69.0%に上りました。

■**健康診断で緑内障が発見された患者は 11.3%のみ**

緑内障が発見されたきっかけは、「他の目の疾患で眼科を受診した」が 23.1%と最も多く、何らかの理由で眼科を受診した際に発見された人が約半数でした。一方、健康診断で緑内障が発見された人はわずか 11.3%でした。

■**7 割～8 割以上の患者が自治体、企業の健康診断での緑内障検診を希望**

緑内障の早期発見のために必要な取り組みとして「地方自治体の定期健診に緑内障の診断項目を入れる」と回答した人は 86.5%、「企業の健康診断に緑内障の診断項目を入れる」と回答した人は 75.8%に上り、ほとんどの人が健康診断で緑内障の発見につながる検査の必要性を訴えています。

■**治療の中心は点眼薬である事を知っていた人は 9.5%**

現在の治療状況では、74.4%の人が「点眼薬のみで治療」と回答しましたが、緑内障と診断される前に「治療の中心は点眼薬」であると知っていた人はわずか 9.5%でした。

「自覚症状が現われにくく、ゆっくり進行する」と回答した人は 21.6%、「眼圧が正常でも緑内障になることがある」と回答した人は 12.3%で、診断される前は緑内障の特徴や治療法について知られていない実態が明らかになり、一層の啓発活動が必要であるといえます。

■**緑内障と診断された時の気持ちは「不安」「心配」**

緑内障発見時の気持ちとして「漠然と不安」(60.7%)、「日常生活の支障を心配」(53.5%)が上位を占めました。その他に「子供への遺伝を心配」(27.0%)、「日常生活での家族への負担を心配」(15.4%)といった、家族や子供を気にかける意見も挙げられました。

■**緑内障フレンド・ネットワークに入会して「情報が得られた」と回答した人は 9 割**

当会に入会することによって、「情報が得られた」(88.9%)や「病気のことが理解できた」(65.6%)、「精神的に楽になった」(47.5%)との回答が多く、当会の活動が患者サポートに繋がっている事が示唆されます。

■**99%が「目の定期検診は必要」と回答**

回答者のほぼ全員(99.2%)が「緑内障ではない人でも、目の定期検診は必要」と回答しています。

＊調査の概要につきましては別紙をご参照ください。

緑内障フレンド・ネットワーク事務局長　野田　泰秀

本リリースに関する報道機関からのお問い合わせ
緑内障フレンド・ネットワーク事務局
〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-2-16-501
TEL:03-3272-6971　FAX:03-3272-6972
http://www.gfnet.gr.jp　e-mail: info@gfnet.gr.jp

参考資料

緑内障フレンド・ネットワーク「患者会員アンケート調査」概要

Ⅰ.調査目的:　緑内障の実態を把握し、今後の啓発活動に役立てる。

Ⅱ.調査設計:　①調査対象　緑内障フレンド・ネットワークの患者会員　有効回答:391 名

②調査方法　郵送調査

③調査地区　東京都、神奈川県

④調査期間　2006 年 3 月 24 日～4 月 11 日

Ⅲ.内訳:

	男性		女性		計	
40 未満	11	(10.4%)	12	(4.2%)	23	(5.7%)
40 代	15	(14.2%)	37	(13.1%)	52	(13.6%)
50 代	15	(14.2%)	67	(23.7%)	82	(21.1%)
60 代	28	(26.4%)	101	(35.7%)	129	(33.2%)
70 以上	37	(34.9%)	66	(23.3%)	103	(26.5%)
計	106		283		389	

平均年齢:　60.7 歳（男性:60.2 歳、女性:60.9 歳）

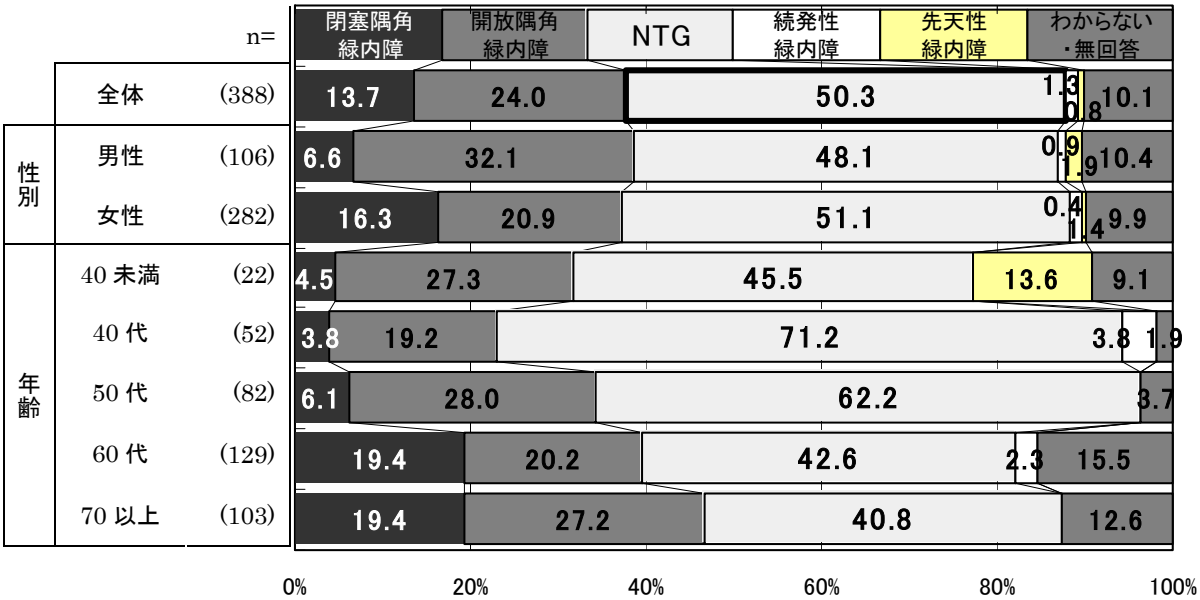
※年齢・性別無回答:2 名

Ⅳ.調査結果の詳細

1.緑内障のタイプ

緑内障のタイプは「NTG（正常眼圧緑内障）」が最も多く 50.3%。年代別の NTG 患者数は 40 代が 71.2%、50 代が 62.2%と、全体より 12～21%多くみられました。

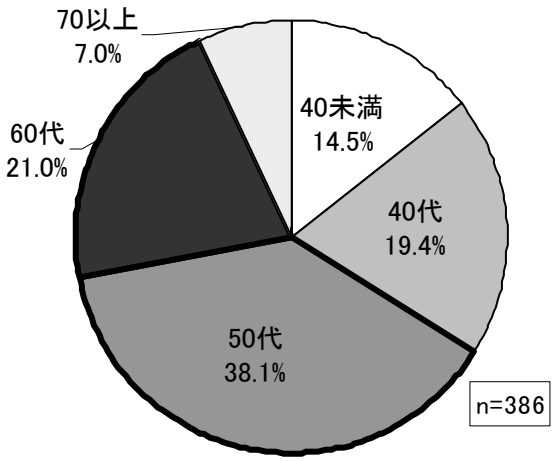
質問. あなたの緑内障はどのタイプですか？（n=388、SA）



2.緑内障発見年齢

緑内障の発見年齢は 50 代が最も多く 38.1%でした。50～60 代での発見が全体の約 6 割を占めています。

質問. 緑内障が発見されたのは、何歳のときですか？（n=386、SA）



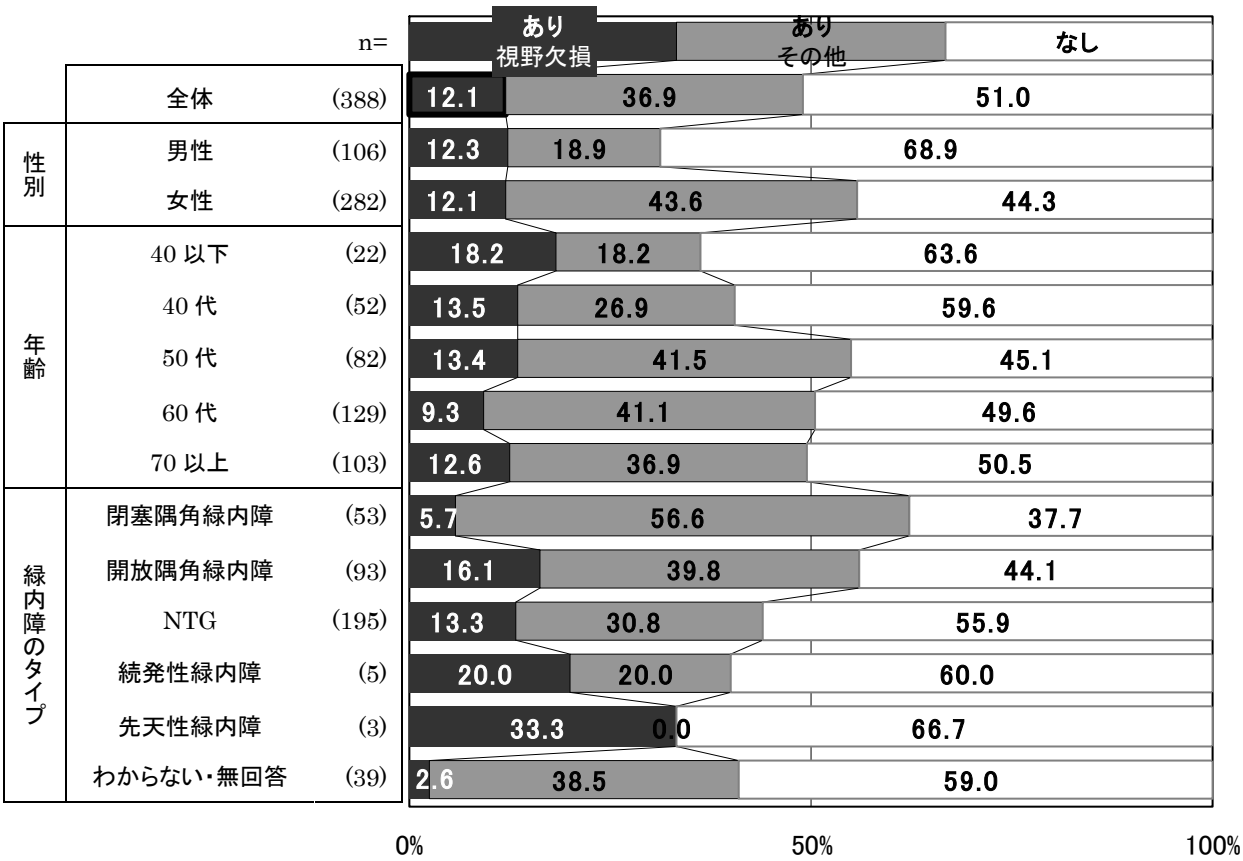
3.緑内障診断前の自覚症状について

緑内障と診断される前に、全体で 49.0%の人に自覚症状があり、そのうち「視野欠損」を感じていた人は 12.1%でした。

特に NTG は、自覚症状のない人の割合が多くなっています。

質問. 緑内障と診断される前に自覚症状はありましたか？（n=388、SA）

（自覚症状があった方）・・・自覚症状を具体的に教えてください（n=190、MA）



※「自覚症状あり」選択項目

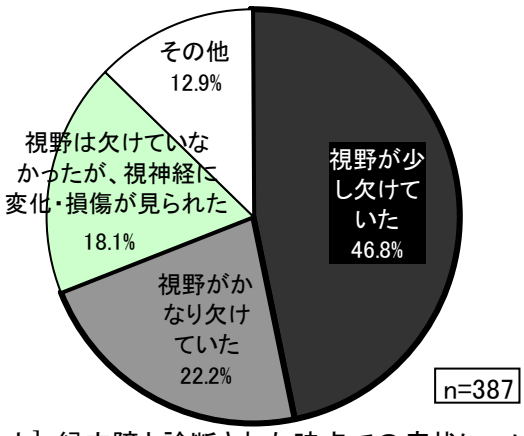
視野欠損	・視野が少し欠けていた ・視野がかなり欠けていた
その他	・物が見えづらい、かすむなど ・目が痛い、目が張るなど ・頭が痛い ・その他

4.緑内障診断時の状況

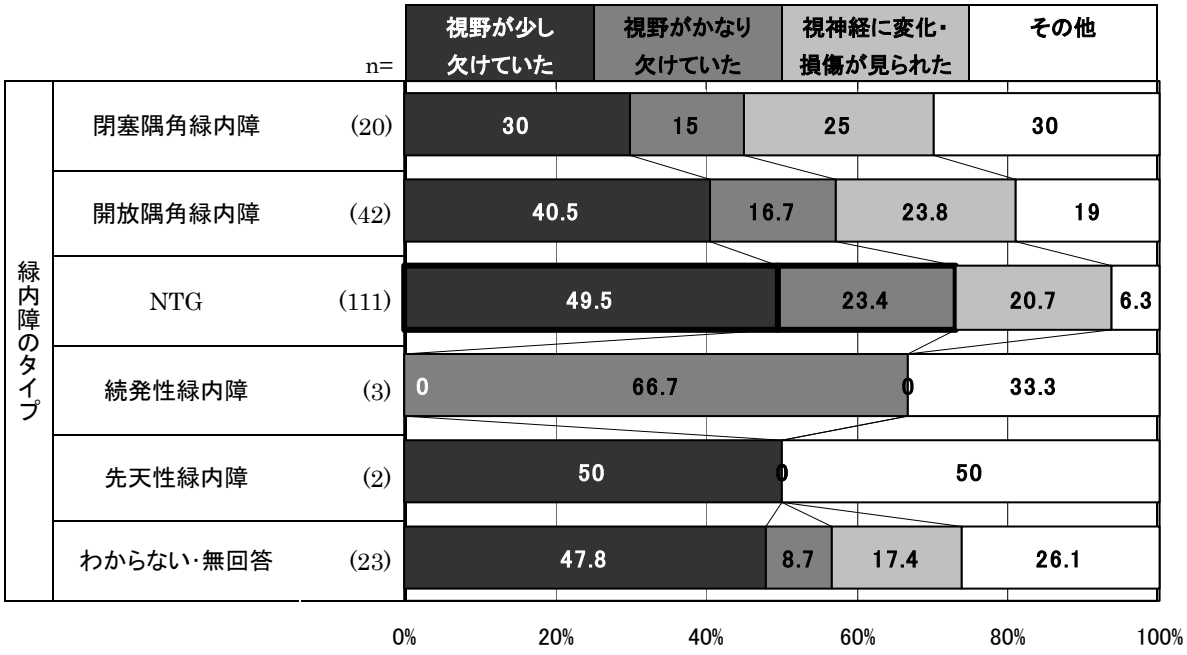
緑内障と診断された時の進行状況は、「視野が少し欠けていた」(46.8%)、「視野がかなりかけていた」(22.2%)で、合わせて全体の 69.0%の人に視野欠損が見られました。

緑内障の診断前に自覚症状が無かった人の中では、NTG 患者に視野欠損が多く見られ、「視野が少し欠けていた」(49.5%)、「視野がかなり欠けていた」(23.4%)で、合わせて 72.9%でした。

質問. 緑内障と診断された時点での病状についてお教えください。(n=387、SA)



質問. [自覚症状がなかった人]:緑内障と診断された時点での病状についてお教えください。(n=201、SA)

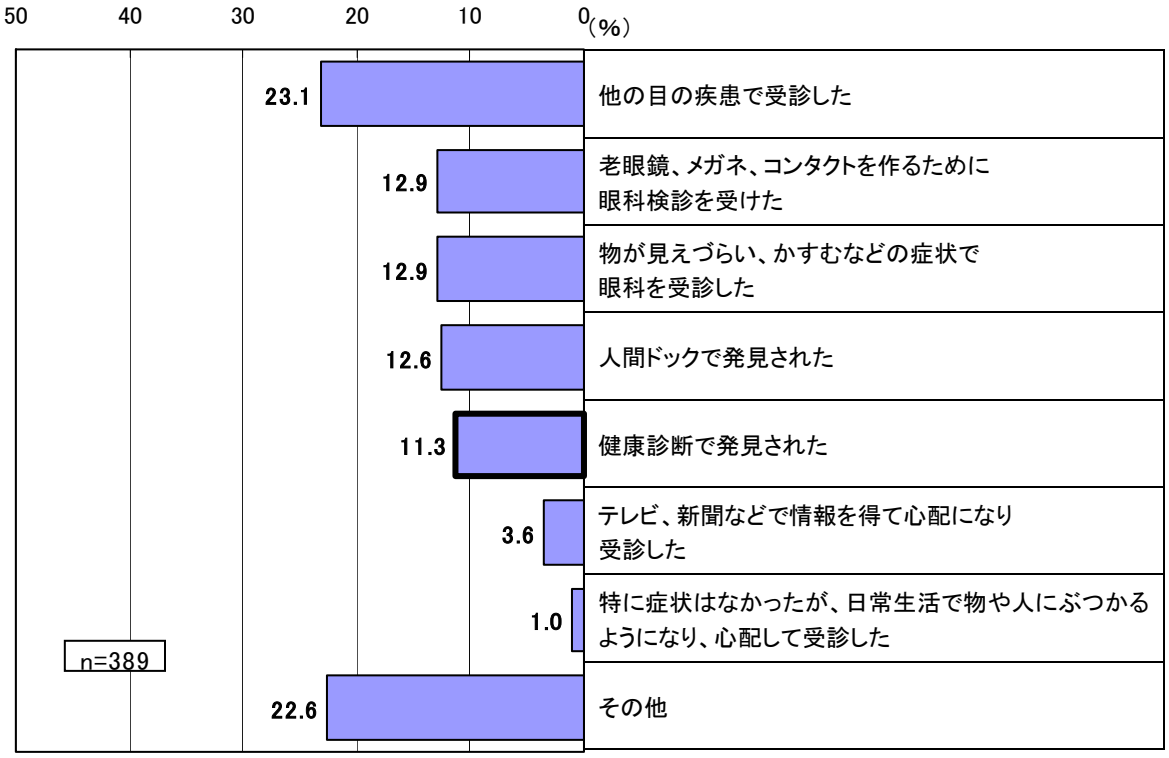


5.緑内障が発見されたきっかけ

「他の目の疾患で受診した」(23.1%)が最も多く、次いで「老眼鏡、メガネ、コンタクトを作るために眼科検診を受けた」(12.9%)、「物が見えづらい、かすむなどの症状で眼科を受診した」(12.9%)と、何らかの理由で眼科を受診した際に緑内障が発見された人が、全体の約 5 割に上りました。

一方で、「健康診断で発見された」は 11.3%でした。健康診断に、緑内障発見につながる検査項目が含まれていない場合が多いためと思われます。

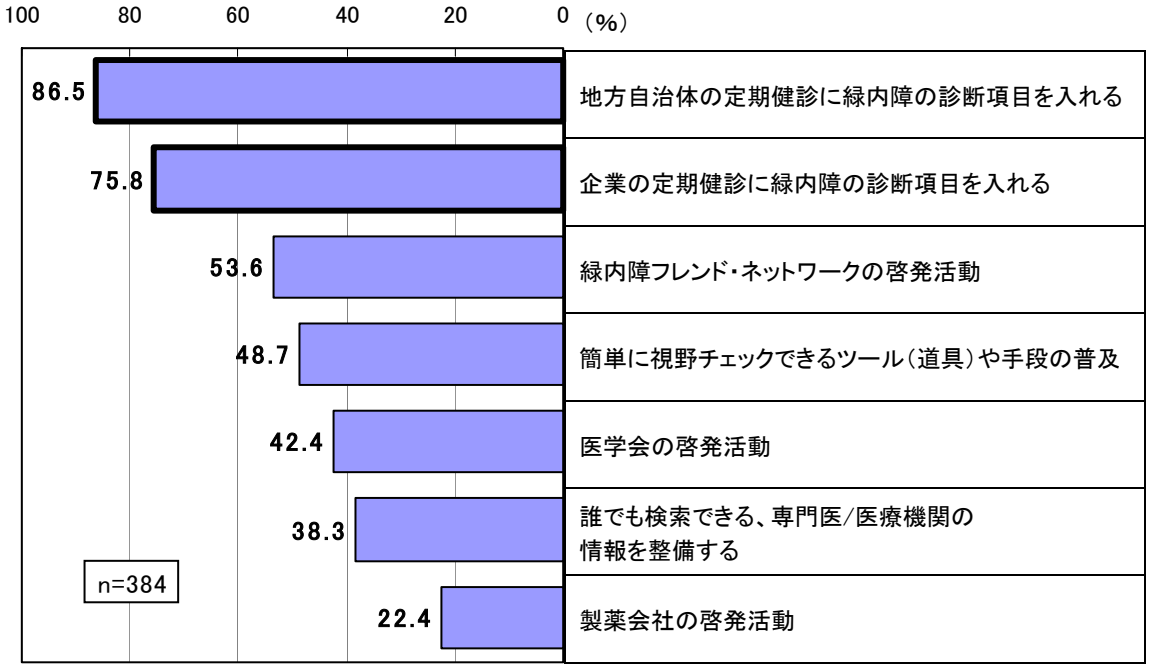
質問. あなたが緑内障を発見されたきっかけはなんですか？(n=389、SA)



6.緑内障の早期発見のために必要な取り組み

緑内障の早期発見のために必要な取り組みでは、86.5%の人が「地方自治体の定期健診に緑内障の診断項目を入れる」、75.8%が「企業の定期健診に緑内障の診断項目を入れる」と回答しています。定期健診で緑内障が発見されるケースは 11.3%（前項参照）と非常に少なく、多くの回答者が定期健診に緑内障発見につながる診断項目が加えられる必要性を訴えています。

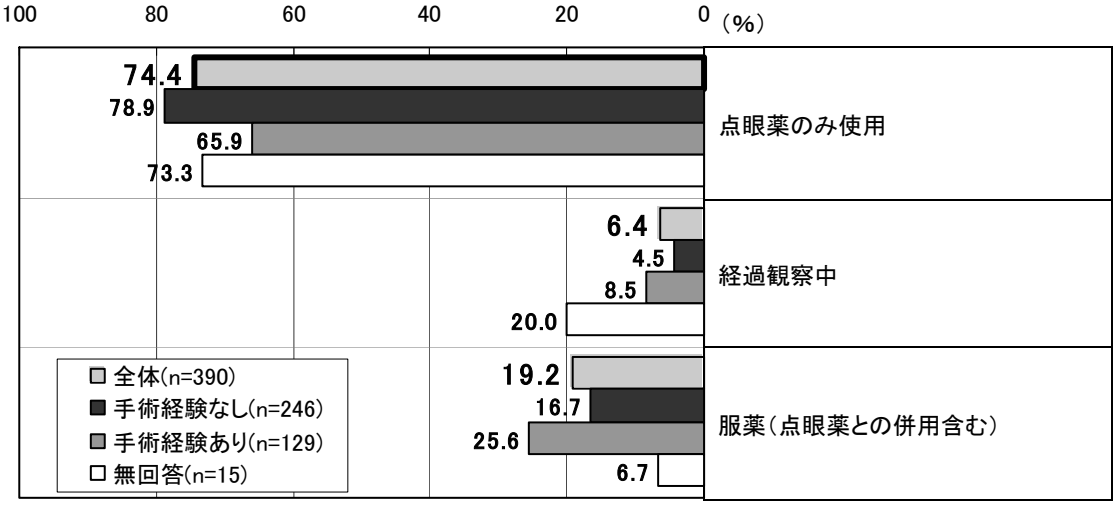
質問. 緑内障の早期発見のために、必要な取り組みは何だと思いますか？（n=384、MA）



7.現在の治療状況

74.4%の人が点眼薬のみで治療をしています。

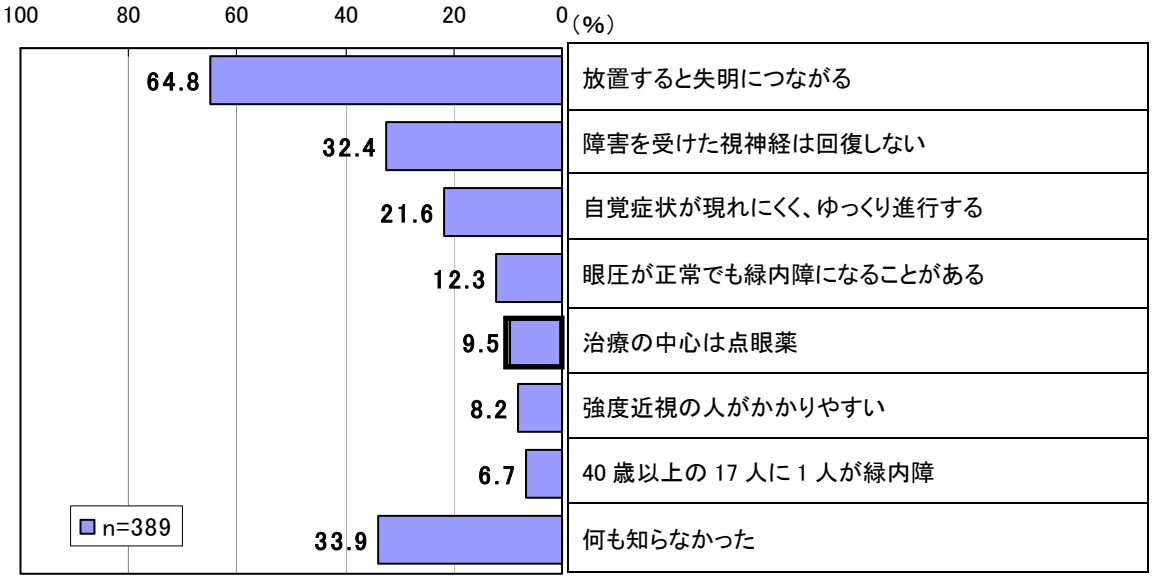
質問. 現在の治療状況をお教えください（n=390、MA）



8.緑内障の診断前に知っていたこと

緑内障の診断前に知っていた情報としては、「放置すると失明につながる」が最も多く、64.8%でした。一方で「治療の中心は点眼薬」と知っていた人は 9.5%にとどまり、診断前では治療法に関する情報があまり知られていないようです。

質問. 緑内障が発見される前に、緑内障について知っていた事をお知らせください。（n=389、MA）

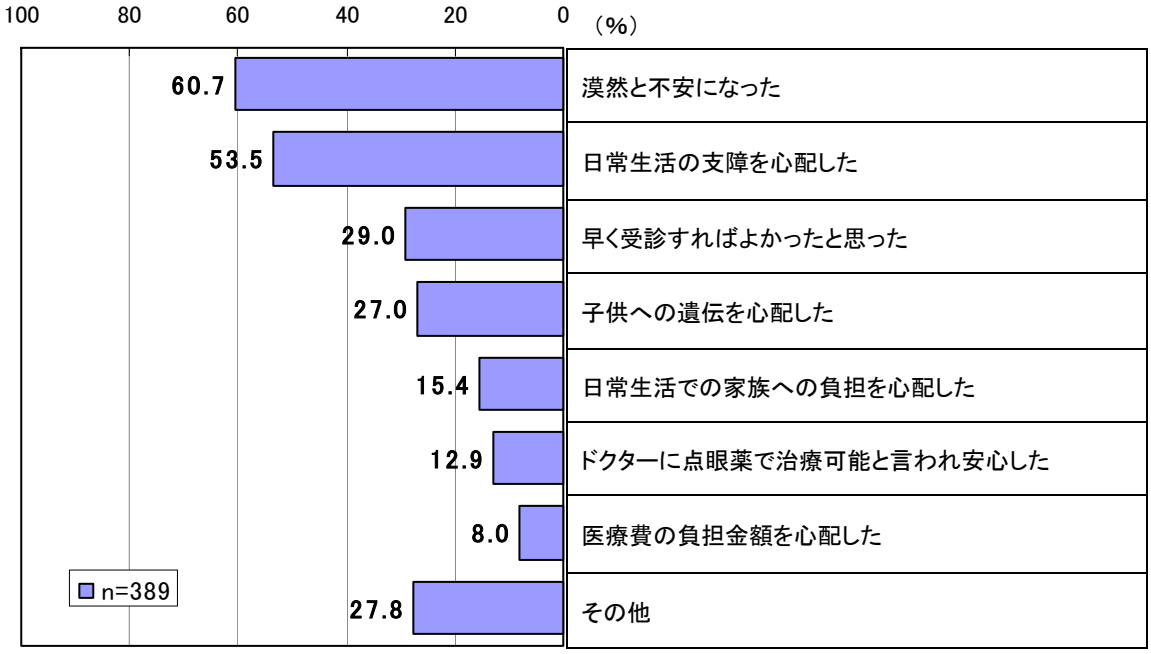


9.緑内障と診断されたときの気持ち

「漠然と不安になった」(60.7%)、「日常生活の支障を心配した」(53.5%)が半数以上を占めました。「その他」(27.8%)では、「まず失明を心配した」「即失明すると思い頭が真っ白になった」など、失明に対し不安・心配に思ったという回答が多く挙げられました。

質問. 緑内障であると診断されたときの気持ちとして、あてはまるものをお答えください

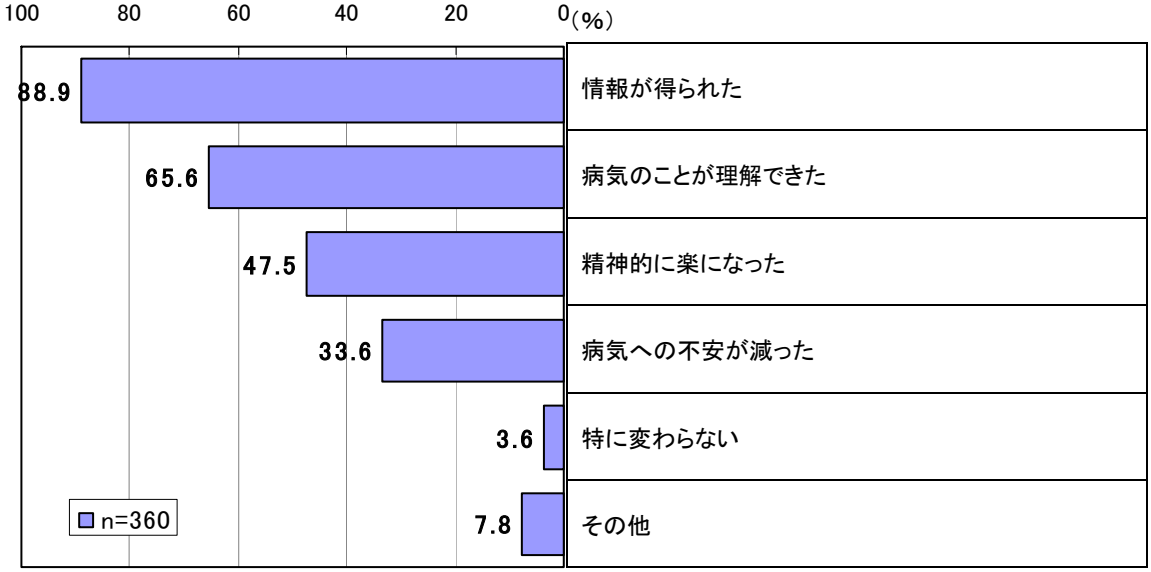
(n=389、MA)



10.緑内障フレンド・ネットワーク入会して

緑内障フレンド・ネットワークに入会して 88.9%の人が「情報が得られた」と感じています。次いで「病気のことが理解できた」(65.6%)、「精神的に楽になった」(47.5%)となっており、当会の活動が患者サポートに繋がっていることが示唆されます。

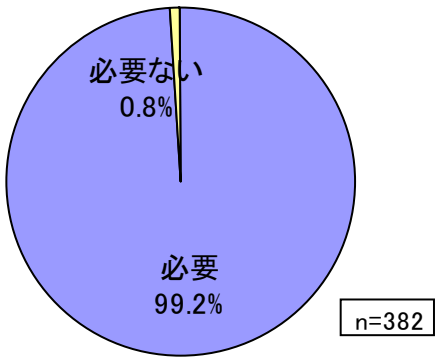
質問. 緑内障フレンド・ネットワークに入会して・・・(n=360、MA)



11.眼の定期検診の必要性

ほぼ全員が「緑内障でない人でも、目の定期検診は必要」と答えています。

質問. 緑内障ではない人でも、目の定期検診は必要だと思いますか?(n=382、SA)



以　上